

2020年3月4日
SCOAP³タスクフォース

SCOAP³タスクフォースの活動について

○ タスクフォースの設置の経緯

SCOAP³は、高エネルギー物理学分野の査読付きジャーナル論文のオープンアクセス化を実現することを目的とした、国際連携プロジェクトである。2017年に始まった同プロジェクトのフェーズ2は2019年末に終了となり、SCOAP³を運営するGoverning Councilは、2020-2022年のフェーズ3に向けた具体的方針を示している。こうしたことから大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議は、フェーズ3における日本の図書館コミュニティの具体的な対応を検討するために、同会議の下にタスクフォースを設置することになった。

○ タスクフォースのメンバー

委員氏名	機関名	部署名・職名
細川 聖二※	東京大学	附属図書館 情報管理課長
池尻 亮子	千葉大学	附属図書館利用支援企画課 専門職員(GL)
福井 恵	筑波大学	学術情報部 情報企画課 電子リソース係長
別府 裕美子	首都大学東京	学術情報基盤センター事務室 図書・学術情報係
藤 順一	早稲田大学	図書館 理工学図書館担当課 専任職員
吉田 芙弓	国立情報学研究所	図書館連携・協力室員(JUSTICE 事務局)

※ 本タスクフォースの主査

○ タスクフォースの検討結果

フェーズ3に参加する機関(図書館)については、原則、SCOAP³の支援に係る拠出額を以下の方法に基づいて算出することとする。

1. アメリカ物理学会(APS)が発行する雑誌に係る拠出額
2020年における各機関の購読価格(原価)に、定められた係数※1を乗じて算出する。
2. 前述のAPSが発行する雑誌以外(non-APS)の雑誌に係る拠出額
フェーズ2における各機関の拠出額(原価)に0.92※2を乗じて算出する。

※1 APS-ALL=12.0% PR C=8.17% PR D=56.11% PR Letters=9.76%

※2 6.5(フェーズ3のために算出された、高エネルギー物理学分野における日本の論文シェア)÷7.1(フェーズ2のために算出された、同分野における日本の論文シェア)

なお、参加機関が実際に拠出する際は、国立情報学研究所が定める為替レートを用いて、円建てで支払うものとする。

○ 2020 年の参加状況

この検討結果に基づいて、事務局にて 2020 年の参加意向調査を実施した結果、次のような回答状況となっている。

2019 年の参加機関数	74 機関
2020 年も継続して参加	68 機関
2020 年の継続参加を検討中	5 機関
2020 年からは参加しない	1 機関
2020 年から新規参加	7 機関
2020 年から新規参加を検討中	5 機関

※ 2020 年 2 月 26 日現在

○ 参考

Governing Council によるフェーズ 3 の考え方

	フェーズ 3	フェーズ 2 (2018-2019)	
		APS	APS 以外
HEP 分野における日本の論文シェア	6.50%	6.90%	7.10%
論文シェアに基づいて日本に期待される拠出額	694,000 ユーロ	425,040 ドル	382,690 ユーロ
(日本円)	8,333 万円	4,694 万円	4,595 万円

※ 日本円への換算には、2020 年 2 月 26 日のレートを使用